

JANEWS

TOKUSHIMA JAPAN AGRICULTURAL COOPERATIVES NEWS

JA自己改革〈PART5〉

「なくてはならない組織」へ自らを変える

JA徳島北〈コウノトリとの共生を目指す農業〉

JA徳島北の主力産品である「れんこん」は大正時代より栽培されており、現在90名、100haで年間1,800tを出荷し販売高は9億円にのぼります。

そんなJA徳島北で現在力を入れているのが、「コウノトリれんこん」の取り組みです。平成28年に管内に飛来したコウノトリのペアが全国で初めて自然繁殖に成功したことを受け、官民を挙げて、定着共存、農業・地域振興の取り組みを開始しました。



また、ブランド力を活かした有利販売実現のため、関東市場を開拓。これに伴い規格を5kg段ボール箱から3kgスチロール箱に見直し、フライド便を採用することで鮮度保持による差別化を図りました。さらに、鳴門市が共生と餌場確保の取り組みを要件として商標登録したブランド「コウノトリおもてなし」の第1号として認定を受けました。



「コウノトリおもてなし」のロゴマーク

その中でJA徳島北はコウノトリの餌場となるれんこん圃場に着目。餌となるカエルやザリガニが多く繁殖できるよう、JA全農とくしまが開発した「オール有機れんこん専用肥料」活用により化学肥料を不使用、また化学農薬を半減した環境に優しい「特別栽培」を部会員11名、4.7haで開始しました。

また、ブランド力を活かした有利販売実現のため、関東市場を開拓。これに伴い規格を5kg段ボール箱から3kgスチロール箱に見直し、フライド便を採用することで鮮度保持による差別化を図りました。さらに、鳴門市が共生と餌場確保の取り組みを要件として商標登録したブランド「コウノトリおもてなし」の第1号として認定を受けました。



青年部討論会

JA大会に向け討論会 農協青年の意見反映を願って



8月3日、徳島県農協青年組織協議会は県下から19名の青壮年部員を招集し、第38回JA徳島大会にかかわる討論会を開催、以下の3つのテーマに分かれ討論を行いました。

- ①農業所得の向上および生産の拡大
- ②次代の農業経営者の確保・育成
- ③JA自己改革



また同協議会の枝川博嗣会長は「この討論会で出された意見を強く要望していきたい」とその思いを話しました。

JA徳島大会とは、県内JAの意思を結集して組合意識を昂揚し、更なる発展を図ることを目的に3年毎に開催しており、今回は11月に開催されます。

討論会で出た意見(抜粋)

- ▼営農指導を通じた組合員との信頼関係の構築がJAの総合事業利用につながる
- ▼販売を一元化しスケールメリットを創出すべき
- ▼基本である職員と組合員のコミュニケーションを大事にして自己改革を進めてほしい

JA共済連徳島 医療関係車両を厚生連に寄贈

JA共済連徳島は、地域・農業活性化取組みの一環として、地域医療を担うJA徳島厚生連へ、地域医療の充実・発展に寄与するための医療関係車両(検診センター利用送迎バスや訪問看護車など計18台)を贈呈しました。



8月3日、吉野川医療センターで贈呈式が行われ、岩田武雄運営委員会長がJA徳島厚生連の佐竹弘通経営管理委員会長に目録とレプリカキーを贈呈しました。

JA美馬「ふれあいセンター」リニューアルオープン!

このたび、JA美馬直売所「ふれあいセンター」がリニューアルオープンしました!きれいな店内には旬の野菜や果物、それを活かした加工品、またJAブランド商品である「かあちゃん野菜」も販売しています。

みなさんの日々の農業に使う道具や肥料などは、隣のJAグリーン協町で取り扱っています。ぜひみなさんお越し下さい!

美馬市協町拜原460 TEL:0883-52-1833



JA美馬産のゆずを使った加工品 ゆずポン酢詰め合わせセット (ゆずポン酢、有機ゆずぽんず)を合計5名様にプレゼント!!



- 応募期間 2018年9月1日(土)~9月9日(日)当日消印有効
- 応募方法 ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、JA直売所への感想・要望などを記載うえ、下記の宛先までお送りください。また当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
- 宛先 〒770-0011 徳島県徳島市北佐古一番町5番12号 JA徳島中央会 プレゼントキャンペーン係

※本キャンペーンにより取得したお客様の個人情報は、商品の抽選および商品の発送のみに利用いたします。